

基本情報

学校

富田林市立小金台小学校
富田林市立明治池中学校

学校運営協議会

彩和学園運営協議会

令和6年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働本部代表
主任児童委員
(以上、地域コーディネーター)
地域住民代表
大学教員
小・中学校保護者代表
小・中学校代表

8名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 3名(2名)

地域学校協働本部

地域学校協働本部
「すこやかネット明治池」

背景・取組概要

- ◆ 明治池中学校区では地域住民が学校教育と地域づくりに高い関心を持ち、20年以上に渡って学校を核とする様々な地域活動が行われてきた。令和4年度、小中一貫校「彩和学園」が開校したが、それまで培われてきた地域と学校の連携を生かして「地域の子どもを地域で育てる」風土を確立するためには学校運営協議会制度の導入が望ましいと考え、令和6年度にコミュニティ・スクールとなった。
- ◆ 学園の教育目標は、先行き不透明な社会を生きていく子どもたちが、**社会とのつながりの中で**主体的に考えて行動し、自分らしさを発揮する力を身につけることである。この目標の達成には地域社会と学校とつながることが不可欠であると考え、**コミュニティ・スクールを生かした地域学校協働活動を確立したい**。それにより「**地域に根ざす学園づくり**」と「**誰からも愛される〈ふるさと明治池〉づくり**」の両方が実現する「**彩和の教育コミュニティづくり**」を進める。

工夫・ポイント・特徴的な取組

□「社会で生きる自分らしさ」を育てる地域学校協働活動

◆ 寺子屋プロジェクト

地域学校協働本部「すこやかネット明治池」の発案で、放課後の子どもの居場所づくりである「寺子屋プロジェクト」に取り組んでいる。「すこやかネット明治池」メンバーを中心に地域ボランティアがスタッフとなり、1～9年生が放課後のひと時を共に過ごしつながれる場をつつた。誰でも参加できる安全・安心な居場所をめざし、不登校児童生徒へも活動を紹介している。大人による学習支援やみんなで楽しむレクリエーションなどを通じて、子どもどうし、子どもと大人の交流が深まっている。

◆ コミュニティ・スクールの取組を支える「ひだまりネット」

彩和学園では9年間の学びを貫く柱として「未来科」を位置づけている。「未来科」では、地域人材・地域資源を生かして探究的な学習の充実を図りたいと考えた。他の教科でも同様のニーズがあったため、**コミュニティ・スクールであることを生かして子どもの活動を地域が支援するしくみづくりをめざして、子ども支援地域ステーション「ひだまりネット」**を立ち上げた。

「ひだまりネット」は、地域の人々に地域学校協働活動への参画を広く呼びかけてボランティア登録リストを構築し、学校からの教育支援の要請に応じて協力者を募って学校へつなぐシステムである。地域コーディネーターが責任者としてひだまりネットの運営にあたりるとともに、地域ボランティアの交流等を企画している。(図1)

このように子どもの活動への地域人材の参画が進むことにより、**学びの深化・充実と「ナナメの関係」づくり**が進んでいる。

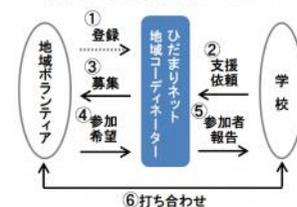
□ 学園運営協議会と地域学校協働活動の一体化

このように、地域学校協働活動に関わる地域コーディネーターが学園運営協議会の委員であることで、活動の一体的な実施が可能になる。例えば、地域コーディネーターの一人は地域学校協働本部「すこやかネット明治池」の代表であるため**活動プランをより具体的に提言でき、運営協議会において協議・助言を行うことができる**。また**委員は「すこやかネット明治池」の全体会議で学園運営協議会の協議内容を直接周知し、反映させることができる**。

さらに、学園運営協議会では学校の取組の事後報告に留まらず、これから取り組もうとする活動について事前に意見を求めるようにしている。各委員の知見に基づいて「熟議」が行われ、共有されている。



(図1) ひだまりネットのしくみ



成果・効果

- ◆ 学園運営協議会に地域コーディネーターが参画することで「地域にできること」について具体的に協議でき、地域と学校の協働がさらに進んだ。
- ◆ 学校運営のPDCAに地域人材が委員として関わることで、地域と学校が一体となったカリキュラムマネジメントを行えるようになった。
- ◆ ひだまりネットの構築等によって子どものニーズと地域の支援をつなぐ仕組みが明確になったことで、教職員に、地域の力をより生かそうとする意識が高まった。同時に学園運営協議会を通じて『『できる人が、できる時に、できるだけ』子どもたちに力を貸せばよい』という理念が共有されることで、地域人材が学校支援活動に参加しやすくなった。
- ◆ 放課後や週末に地域の活動に参加している児童生徒の割合が高く、子どもの主体的な参画が進んでいる。(R6全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査より)

	地域の活動に参加している割合	
	小学校	中学校
彩和学園	6.9p	13.0p
全国平均	4.4p	3.9p